

〔学会報告記〕

第28回日本頭頸部腫瘍学会および第25回頭頸部手術手技研究会のご報告

安 陪 等 思

第28回日本頭頸部腫瘍学会および第25回頭頸部手術手技研究会が本学放射線医学教室の早瀬尚文会長のもと平成16年6月16日から6月18日まで福岡国際会議場において約1,400人の参加を得て開催されました。

今回はチーム医療を有効に働かせることにより、よりよい治療成績とQOLを得られるようになるという思いを込め、主題を「チーム医療で臨む頭頸部腫瘍」としました。平野実名誉学長の基調講演、会長の全国アンケートに引き続き（鈴木弦君が頑張りました）、シンポジウムでは関連各科による集学的医療のより効率的な活用と克服すべき問題点について熱心な討論がなされました。多くの会員には影響されるところが多かったと好評でした。

特別講演としてはデンマークの Jens Overgaard 先生、招待口演としては(株)ふくやの川原正孝氏にお願いしました。シンポジウムとしては「頭頸部領域の悪性リンパ腫」、「頭頸部がんに対する化学療法の新展開」、「中咽頭癌の治療戦略」が行われました。会長の発案での新たな試みとして教育講演の8演題を一日半にわたり連続して行い、立ち見が出るほどの盛況であり、好評を得ることができました。一般演題は口演を67演題、ポスターを323演題とポスターに重きを置いたものとししました。ポスターの演題については優秀なものを選出し、表彰と受賞講演を行いました。当日にポスターの一部をデジタルカメラで撮影しパワーポイントを用いて口演をするという新しい試みでした。時間の関係上、プログラムの最後になってしまい聴衆が少なかったのが残念でしたが、斬新な試みであったと思っています。

頭頸部手術手技研究会においては「誤嚥防止手術」、「下咽頭・食道の再建」をテーマとし耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、形成外科・顎顔面外科学の両教室の全面的なご支援をいただき、成功を収めることができました。また、全体としては歯科口腔医療センターのご協力も加え、本学頭頸部腫瘍を扱う関連各科のチームワークの良さが際立っていました。この場をお借りして深く御礼を申し上げます。

最近の学会ではランチョンセミナーとして昼食時に講演を聞く形式の発表がよくあ

ります。確かに時間の節約にはなるのですが、一流の演者の発表を聞くのと食事をするのを同時に行うことによるデメリットもあると思っていました。以前にヨーロッパの学会に行ったときに昼食をビュッフェ形式で行っているのを経験して、できることならばこれを取り入れたいと思っていました。今回、会長のお許しを得てその様にいたしました。講演会はスポンサードセミナーとして昼食前に行い、講演会場から出てきたら通路やロビーがビュッフェに早変わりしているという趣向です。国際会議場の1階から4階までを使って昼食を立食で行いました。少しだけビールとワインを用意しました。午後の討議がすこし活発になったような気がしました。その代わりに会員懇親会は行いませんでした。

最後に、平野名誉学長が第8回の本会を主催されて20年ぶりの開催を無事に終えることができました。事務局長をさせていただいた私としては無事に終了することができて本当に幸せでした。ひとえに関連される多くの方々のご協力とご支援のたまものと心から感謝申し上げます。







